

令和4年度第1回多摩区支え合いのまちづくり推進会議 御意見シートとりまとめ

御意見・御質問

「重点的な取組1 情報提供の拡充」について

【広報誌「地ケア TAMA」について】

●田園調布学園大学 和 秀俊 委員

分かりやすく興味を持ちやすい工夫をしている広報誌「地ケア TAMA」の発行と活用による効果は大いにあったと思われる。紹介された活動の動画を QR コードから見るができるようになると、より魅力を伝えられ、参加者が増えると思われる。

●関係課回答

区民の方が取り組む具体的な地域活動を御紹介し、地域包括ケアシステムをイメージしやすく、身近に感じていただくことを目的に、令和3年度から年2回、広報誌「地ケア TAMA」を発行しています。

広報誌をご覧になった方から、紹介されていた地域活動に参加したい、とのお問い合わせをいただいたこともあり、関心を持っていただけるきっかけの一つになっていると考えています。

御提案いただいた二次元コードでの活動動画の発信を含め、今後も魅力ある誌面作りを工夫していきます。

【生田小学校での取組について】

●多摩区こども総合支援連携会議 有北 いくこ 委員

情報提供の拡充について小学校との連携ができたことはもっと良い評価にしてもいいのでは？
これからも小中学校との連携を進めていただきたいです。

●多摩区食生活改善推進員連絡協議会 小川 町子 委員

生田小学校への取り組みは、こどもたちが地域に興味を持つきっかけになったと思います。

●登戸地区社会福祉協議会 木澤 静雄 委員

ZOOM を活用した子供たちへの地ケアに関する授業及びその結果のポスター作成展示等非常に良い取組であり、今後はさらにこの活動を拡大して次世代を担う子供たちの地域に対する理解を深めていけたらと思います。

●多摩区町会連合会 松本 英嗣 委員

生田小学校の取り組みに関心を持った。

●関係課回答

若年層への情報提供の取組として、新たに ZOOM を活用した授業を実施しました。

子供たちが授業で得た学びをポスター等にまとめ、発表してくれたことで、どのように受け止めたのかを知ることができました。

子供たちが地域で生活する中で気づきを重ねることが、これからの地域づくりにつながっていくと考えています。今後も小中学校との更なる連携について検討していきます。

なお評価（達成度）については、生田小学校の取組は若年層への普及啓発という意味で新たな試みでしたが、この取組以外の、広報誌の発行等の取組も含めた総合的な評価として「達成度：3 目標をほぼ達成」としました。

【パネル展示について】

●川崎市多摩区社会福祉協議会 吉田 紀代子 委員

コロナ禍で自粛生活が続く中、区役所アトリウムでの展示に関心を持つ方が多く見受けられました。情報の発信については今後も継続して行って欲しいと思います。

●関係課回答

オンラインでの情報発信・収集は目的を持ってその情報にアクセスする手法ですが、区民の方一般に地域包括ケアシステムの概要を知っていただく手法として、不特定多数の方が来庁されるアトリウムでのパネル展示を実施しました。

パネル展示をご覧いただいた方から掲示されていた取組へのお問い合わせをいただいたり、配架資料を持ち帰られる方が多くいらしたことから、地域包括ケアシステムの取組に興味を持っていただくきっかけとして有効に働いたと考えています。今後も継続して取り組んでいきます。

【どうぶつ愛護フェア・ペット防災啓発動画について】

●多摩区民生委員児童委員協議会 松澤 明美 委員

従来の展示方法だけでなく、動画配信などは外に出かけなくても自宅で情報を入手することができるといった取組はコロナ禍において特に良いと思う。

●関係課回答

コロナ禍で従来の取組に制約が生じる中、新たな手法で情報発信を行いました。結果的にそれが情報へのアクセスのしやすさに繋がり、「情報提供の拡充」につながったと考えています。

今後も様々な取組を推進していきます。

【パサージュ・たまについて】

●川崎市多摩区社会福祉協議会地域課 内田 由美子 委員

パサージュ・たまはSDCでの展示・販売を試みるなど新しい取り組みができてよかったと思います。

出展数の制限などまだ通常に戻れない部分もあり、区社協としても出展を見合わせていますが、広報誌の委員など、協力できるところはこれからも協力していきたいと思っています。

●登戸地区社会福祉協議会 木澤 静雄 委員

パサージュたまの開催を通してこれからも社会への理解を深めていけたらと思います。

●関係課回答

通常のパサージュ・たまの開催に加え、多摩区ソーシャルデザインセンター（多摩SDC）での常設展示・販売を行うことで、障害当事者の方の活動に触れ、障害について関心を持っていただく機会の拡充が図られました。

また、今年度作成している広報誌についても、パサージュ・たま運営委員会内で広報部会を立ち上げ、より活動内容が伝わりやすい誌面になるよう見直しを行っています。区社協ボランティアセンターのメンバーの方も広報部会に加わっていただいております。今後も協力して取り組んでいければと考えています。

障害当事者の方々の活動を身近に感じていただき、より一層理解が深まるような取組を今後も推進していきます。

「重点的な取組2 地域の支え合い活動の推進」について

【登戸・中野島・菅地区の取組について】

●多摩区商店街連合会 安陪 修司 委員

各地区別に集まり、出席団体、個人等、意見の取りまとめ、話題の整理が難しいと思われた。多世代間の交流も参加者集め等困難であったと思われるが、多数の参加を得て交流結果も上手にまとめられており成果も十分得ていると思う。

●多摩区こども総合支援連携会議 有北 いくこ 委員

地域の支え合い活動の推進について、これまでも何年も地域ごとのミーティングをやっているが、つながりのきっかけと言いながら、その先の具体的な活動はなかなか見えてこない、また継続しない。市民が自主的に活動をつなげていくためのノウハウをもっと検討学習してはどうか。またそのための条件づくりを行政がもっと積極的に行ってはどうか。従来のやり方ではいつまでも同じ所から出られないように思います。

●川崎市多摩区社会福祉協議会地域課 内田 由美子 委員

登戸、中野島地区でのミーティングに続き、菅地区でも今後本格的に始動されるということで、地区社協への広報など協力していきたいと思います。

●登戸地区社会福祉協議会 木澤 静雄 委員

多世代交流での地域づくりに関しては、コロナ禍でなかなか交流自体が難しいなか、ZOOMを使ったコアミーティングの開催等工夫を凝らしての交流が図られ、非常に良かったと思いました。

これからはデジタル難民や子供たちにかに交流の場を提供することができるか、より一層の工夫をする必要があると思いました。

●生田地区社会福祉協議会 小峰 信子 委員

全地区に展開するのは難しさもあると思うが、実施していない地区への働きかけを早急に進めていただきたい。

●よみうりランド花ハウス地域包括支援センター 佐久間 真弓 委員

コロナ禍での交流としてZOOM開催は今後も有効と考えます。

●川崎市多摩区社会福祉協議会 吉田 紀代子 委員

「地域包括ケアシステム」について区民がどれだけ理解しているのか疑問です。地域でのミーティング開催は行われましたが、携わっている人の集まりに感じました。地域住民への「意識の向上」を高める課題が必要と思われます。

●関係課回答

5地区の取組について、地区ごとに取組の経過が異なり、また参加されている方々の意識もまちまちであるため、どの地区にも有効で一律なノウハウを見つけることは難しく、地ケアの取組を進める上で基本となる「地域特性に応じた取組」を丁寧に進める必要があると考えています。

その地区の特性や課題、何が求められているのかを地域の方々と共有し、繰り返し話し合いながら参加者の方々の意識をまとめ、具体的な取組につなげていく作業がとても重要なステップであり、その地区独自の取組が地域に根付いていく礎になると考えています。

現在、いくつかの地区では参加者の意識醸成とつながりづくりの先の段階へ進む働きかけについて検討し、取組を進めています。今後、地区ごとに順次進める予定ですが、その中でZoomを始めとしたデジタル化の手法も視野に入れ、多くの区民が参加しやすく、興味を持てるような取組を推進していきます。

【スマホ・Zoom 講座について】

●多摩区食生活改善推進員連絡協議会 小川 町子 委員

コロナ禍でオンラインで会議等に参加できるようになりました。また、スマホを使って簡単に情報を得ることができるようになりました。それには上手にスマホを使いこなせることが必要になってきます。今後もシニア向けに「スマホ・ZOOM 講座」を開催していただきたいと思います。

●田園調布学園大学 和 秀俊 委員

コロナ禍における新しいつながり方として、スマートフォンやオンライン、屋外の活動などの必要性和重要性を確認することができ、そのためスマートフォンを活用できるような「きっかけ」づくりまで繋がった。次はこのような取組を継続できる「仕組み」が必要である。

例：スマホが得意な大学生が組織的に関わることができる SDC との連携など

●よみうりランド花ハウス地域包括支援センター 佐久間 真弓 委員

学びたい高齢者もおられると思うので広報活動により広がると思います。

大学生などの協力（サークルへの依頼）はどうでしょうか。

●多摩区民生委員児童委員協議会 松澤 明美 委員

「シニア向け！初めてのかんたんスマホ・ZOOM 講座」はもっと多く開催してほしい。地域の人もスマホを持っている人が多くますが、使い方がわからないと言っている人が多い。

私自身もその講座に参加したいし、地域の人（近所の人）にも呼びかけたいと思う。

●関係課回答

現在、様々な情報やつながりはオンラインを介して発信されることが多く、またコロナ禍で対面での接触に制限が生じたこともあり、スマホやパソコン等を活用したつながりの重要性が着目されています。

こうした機器の活用度合には個人差があり、様々な場面で活用される方がいる一方、スマホ等をお持ちでない方、また持っているけれどもうまく活用しきれず、必要な情報が得られなかったりと、人とのつながりが途絶えがちになる方もいらっしゃいます。

今後、更にオンライン化が進む中、こうした機器をうまく活用しオンラインを介したやり取りが問題なくできるスキルを身に付けた方々が増えることで、つながりを生み、維持するための新たな手法を取り入れることができるようになると考えています。

コロナ禍の中でその重要性が認識され始まったばかりの取組ですが、今後も様々な形で取組を進めていきたいと思っています。

「重点的な取組3 区民・団体・民間・行政の連携」について

●多摩区商店街連合会 安陪 修司 委員

見守り・支え合いのネットワークづくりは、それぞれ専門の団体又は会社の方の集まりで関係団体に対して理解が深まったと思う。

数多くこの種の集まりは開けないと考えるが、できるだけ多く開いてほしい。

●田園調布学園大学 和 秀俊 委員

グループワークを活用した研修会によって関係機関との連携が促進したと思われる。特に要保護児童は深刻な課題であるので、他機関が連携したチームアプローチができる「仕組み」づくりが今後の課題となるであろう。

●登戸地区社会福祉協議会 木澤 静雄 委員

要保護児童対策協議会・在宅療養推進協議会の活動についてはまだまだ地域に知られていない面が多く、民生委員等への啓蒙活動がより一層求められていると思います。各民児協の定例会等で各協議会の活動の紹介等を行い、民生委員等から地域へ情報発信していけたら良いのでは、と思いました。

●よみうりランド花ハウス地域包括支援センター 佐久間 真弓 委員

話し合われている内容や活動を区ホームページ等で見られる（見方の使い方の講座へ展開するなど）と良いと思います。

●多摩区地域自立支援協議会 田子 洋平 委員

多摩区要保護児童対策地域協議会や多摩区在宅療養推進協議会について、障害支援の相談支援センターも会議等に入れてもらえるとうい。関わるケースもあるので。

●関係課回答

【要保護児童対策地域協議会実務者会議】

実務者会議代表者部会では、支援が必要と思われる児童等の支援ネットワークに加わる関係機関の代表者を中心に、情報交換や研修等を通して包括的な支援体制を構築し、支援対象児童等への個別支援における適切な支援、連携につなげていきます。

こうした取組について積極的な広報等は想定していませんでしたが、民生委員児童委員協議会及び主任児童委員部会を始めとした関係機関が知識を共有し、適切な連携を図ることが重要であることから、御要望があれば周知していくことが望ましいと考えています。

今後も児童支援における適切な支援ネットワーク構築に向けて連携を強化していきます。

【多摩区在宅療養推進協議会】

在宅医療や看取りについて、当事者とそうでない方では大きな認識の差がある一方、在宅での看取りは着実に増加してきています。こうした状況を知り、どのような最後を迎えるのか、全ての方に考えていただく機会をつくっていく必要があると考えています。

区民の皆様により身近なこととして感じていただくため、例えば、多摩区在宅療養推進協議会が開催する在宅医療の勉強会に、地域のつなぎ役である民生委員児童委員の皆様にご参加いただいたり、令和5年度に予定されている市民シンポジウムの開催周知に御協力いただくなど、様々な連携を図っていただければと思います。

また、在宅療養推進協議会の取組テーマは、高齢者が要介護状態から終末期にかけて通院が困難になった際の、訪問診療・訪問看護等の在宅医療と、訪問介護・福祉用具の活用等の在宅介護の、一体的な提供体制の構築と本人の意思を尊重した終末期医療や看取りの実現となっています。

医療と介護の連携については、障害者支援分野においても関係する内容でもあります。障害者の高齢化が進む中で、障害者を含む様々な方々に対応できる在宅療養支援が求められているものと認識しておりますので、多職種多機関による連携の充実に向けて、引き続き取り組んでいきます。

「多摩区内5地区における地域づくりの取組」について

●多摩区商店街連合会 安陪 修司 委員

区内5地域それぞれ地理的に見ても土地柄にあった活動をしているが、各地区共通の問題等もあるので共通の議題として取り上げて良いのではないかと。

●多摩区こども総合支援連携会議 有北 いくこ 委員

コロナ禍での開催は困難を伴うと思いますが、何年も同じようなことをやっている気がします。具体的な問題解決に向けての行動計画を作ってはでしょうか。単に「つながり」と言っても各施設、団体は既に手一杯で、これ以上何をしたらいいのかという所もあるのでは。会議回数が増えるだけなら自己満足では？

●川崎市多摩区社会福祉協議会地域課 内田 由美子 委員

これは毎年作成（更新）されるのでしょうか。また、どういう所で配布されますか？

●菅地区社会福祉協議会 大澤 敏夫 委員

TeamSUGE 地ケアプロジェクトの発足により、地域内の困り事・心配事を話し合い地域内の実情を把握し合い、よりよい町づくりに努めてまいります。

●田園調布学園大学 和 秀俊 委員

菅地区の「Team SUGE 地ケアプロジェクト」で実施する地域の活動現場ツアーは多世代が参加しやすく、地域の実情を「我が事」（自分事）に捉えやすいので、各地区でも展開してよいと思われる。

●登戸地区社会福祉協議会 木澤 静雄 委員

地域づくりに関しては町内会自治会との連携が不可欠であると思います。町内会自治会の取り組み方にも温度差がありなかなか難しいと思いますが、理解を得られるよう継続してアプローチが必要不可欠であると思います。

●生田地区社会福祉協議会 小峰 信子 委員

登戸・菅・中野島地区は取組が進んでいるが、稲田・生田地区は具体案が出ていないし、取組が遅れているのが気になる。地域的にまとめるのが難しい地域であることは理解できるが、どう進めていくのか注視していきたいと思う。

●よみうりランド花ハウス地域包括支援センター 佐久間 真弓 委員

大学生を取り込んで多世代の橋渡しの役割を持っていただくことはでしょうか。

●多摩区町会連合会 松本 英嗣 委員

行政や社協などが事務局となり推進している諸団体の活動も資料5の“具体的事業名”に匹敵するものがまだまだある。それらを合わせると全体感がでる。

また町会との継続的なかわり方の薄さを感じる。

●関係課回答

区役所が行う5地区の取組については、地域ケア推進課、地域支援課の職員を中心に年3回実施している「5地区合同定例会」において取組の進行管理及び情報共有を行っており、その都度取組の詳細をまとめた資料を作成しています。今回の【資料6-6】はその定例会資料を要約したものとなっており、年度ごとに更新しています。このため、地区を限定しない区内全域の取組や、区役所以外の主体による取組は含まない内容となっています。

各地区の取組の進行管理をする一環として、当面の地域づくり全体のスケジュールも共有しており、このスケジュールに基づいて各地区の地域づくりを順次進めています。現在は登戸・菅・中野島地区の取組を先行して進めており、3地区の取組の中で得られた手法を取り入れながら、稲田・生田地区においても各地区の地域特性に合わせた取組を推進する予定としています。

こうした取組において町内会・自治会との連携は欠かせないものであり、取組を推進するメンバーとして御参加いただいたり、御意見をお伺いするオブザーバーをお願いしておりますが、より一層連携した地域づくりを推進することができるよう、関係構築を進めていきたいと思っております。

各地区で取組を進める上で様々な御意見をお伺いしますが、どの地区でも共通する課題がいくつかあります。そうした課題は地区の特性によるものではないことが多いため、地区ごとの取組の枠組みを越え、多摩区全体を対象とした「地ケアフォーラム」等で取り組んでいければと考えています。

例えば、各地区共通の課題という視点で考えると、「重点的な取組2」で取り上げた「Zoom・スマホ講座」の取組は、どの地区でも共通する「デジタル難民」への対応と位置づけることもできますが、そういった講座のサポートをスマホに精通した大学生に担っていただき、各地区共通の課題を多世代交流の視点を取り入れて解決していく、ということも可能ではないかと思っております。

今後も様々な視点を取り入れながら、地域づくりを推進していきたいと思っております。

その他の御意見・御質問

●多摩区こども総合支援連携会議 有北 いくこ 委員

評価について、前回会議でもお話ししましたが、評価が殆ど3なら評価の意味はないです。むしろ「できなかったこと」「計画以上にできたこと」を単に書くだけの方が分かりやすいと思います。

●関係課回答

達成度についてはこれまでも御指摘をいただいております、留意して評価をまとめました。

コロナ禍で計画変更を余儀なくされた取組の達成度は【資料3】の「(4) 事業の達成度」に基づき、計画の一部実施もしくは代替の取組を実施した場合は、当初の計画通りではないものの、事業の効果は一定程度評価できるとし、「3 目標をほぼ達成」としました。

当初計画の中で実施できなかったことや、計画には無かった代替取組の実施内容は【資料5】の「取組状況（令和3年度）」欄に記載していますので御参照下さい。

●田園調布学園大学 和 秀俊 委員

多摩区の地域福祉の構想や計画は本会議において協議する場となっているが、添付資料の「地域デザイン会議」とどのように連携するかが重要だと思われる。ご検討いただきたい。

●関係課回答

支え合いのまちづくり推進会議（以下、「本会議」という。）で地域福祉に関する御意見をいただいておりますが、様々な分野から御出席いただいている委員の皆様の視点は多岐にわたり、また限られた時間の中では議論が深まりにくいのが課題であると感じています。

現状では、更に議論を深めるべきテーマがある場合でも、本会議においてその議論の場を別途設けることは難しい状況です。

地域デザイン会議は、これまでの区民会議に替わる新しい参加の場として、より多くの区民の方が参加しやすい機会を拡充するため、令和5年度までを試行期間として、各区役所が業務等を通じて把握している課題などをテーマに、様々な形式で開催していくこととしています。

本会議との連携につきましても、例えば、本会議で取り上げられた個別具体の課題を地域デザイン会議のテーマに設定し、テーマに応じた参加者を募り意見交換を行うことなどが考えられますので、区役所として創意工夫をしながら、柔軟な対応を検討してまいります。

●多摩区町会連合会 松本 英嗣 委員

全体的に区内の様々な方々を対象とし、様々な催しが行われていることがよくわかる。記載されていない団体の活動を加えると、区内の状況がもっと見えてくると思う。

事業の進捗度について、コロナ禍の中で実施できなかった催しも多々あり、それらは
“3 目標をほぼ達成”ではないと思う。(団体や行政事務局の努力は理解できるが)

●関係課回答

今回送付した資料は、地域福祉計画に関連付けられている事業・取組について御説明する資料となっており、区役所が実施しているもの、もしくは区役所と何らかの連携をしながら取組を推進している活動について説明する資料となっています。

地域福祉計画と関連付けられていない活動については、広報誌「地ケア TAMA」で取り上げさせていただいたり、別の機会でご紹介させていただきながら連携していければと思います。

事業の達成度については、【資料3】の「(4) 事業の達成度」に基づいています。

「プロセスとして創意工夫したことがある又は効果が一定程度評価できる場合」が「3 目標をほぼ達成」、「プロセスとして創意工夫した点がなく、効果も評価できない場合」を「4 目標を下回った」「5 目標を大きく下回った」としており、【資料5】の各事業の取組状況を参照すると、いずれの事業もコロナ禍での取組に向けて何かしらの創意工夫や代替案を検討し、計画の一部実施でも効果は一定程度評価できることから「3 目標をほぼ達成」としました。

御感想

「重点的な取組1 情報提供の拡充」について

●多摩区商店街連合会 安陪 修司 委員

設定目標が対前年に対して継続しているか、新たな目標か、種々多数の内容から取り上げるので分からないが、幅広いテーマの中で活動されており企画段階で大変であったと思う。またコロナ禍での活動であり、集会場、発表方法等各種制約がある中で大変だったと思われる。

●多摩区食生活改善推進員連絡協議会 小川 町子 委員

コロナ禍の中、様々な工夫や媒体を活用して情報を発信されたことが伺えました。

●中野島地区社会福祉協議会 奥沢 邦雄 委員

対面集会ができず、広報誌等で啓発運動ができたと思う。

●登戸地区社会福祉協議会 木澤 静雄 委員

コロナ禍で色々な活動に参加することが難しい状況ですが、オンラインの活用等工夫を凝らして活動していければと思っています。

●生田地区社会福祉協議会 小峰 信子 委員

基本目標に添って様々な方法での取組をしていて成果もあるようですので、意見・質問はありません。

●よみうりランド花ハウス地域包括支援センター 佐久間 真弓 委員

コロナ禍で工夫して開催されたことと思います。

「重点的な取組2 地域の支え合い活動の推進」について

●中野島地区社会福祉協議会 奥沢 邦雄 委員

各地域が年間活動計画が変更や中止等でのとまどいがうかがえる。

●多摩区町会連合会 松本 英嗣 委員

まだスタートの段階の取組であり、今後の広がり、進展に期待したい。

「重点的な取組3 区民・団体・民間・行政の連携」について

●多摩区こども総合支援連携会議 有北 いくこ 委員

区民・団体・民間・行政の連携について、具体的な内容が分からないので書きようがありません。会議ができたことは良かったと思います。

●川崎市多摩区社会福祉協議会地域課 内田 由美子 委員

コロナ禍での開催でいろいろとご苦労もあったと思います。

今後も工夫をしながら取り組んでいけたらと（お互いに）思います。

●中野島地区社会福祉協議会 奥沢 邦雄 委員

コロナ禍で多数の集会ができず、さびしい会議が多い。

●生田地区社会福祉協議会 小峰 信子 委員

この2つの会議と協議会は関りががないため、取組状況は把握できないが、資料を読んだ部分で判断すると着実に実施されていると思う。

●多摩区民生委員児童委員協議会 松澤 明美 委員

コロナ禍でも講演会、グループワーク研修会などを実施、開催することによって理解を深めるものとなる事がわかった。

●多摩区町会連合会 松本 英嗣 委員

行政は、コロナ禍の中でよく取り組んでいる。

●川崎市多摩区社会福祉協議会 吉田 紀代子 委員

「46」「56」に関しては地域支援課、高齢・障害課それぞれの方々の連携が必要であり、コロナ禍にあつての努力に敬意を感じます。

「多摩区内5地区における地域づくりの取組」について

●中野島地区社会福祉協議会 奥沢 邦雄 委員

地域の特色が出ていると思う

●多摩区地域自立支援協議会 田子 洋平 委員

障害支援の相談支援センターとして関われる機会があれば関わっていききたい。

●多摩区民生委員児童委員協議会 松澤 明美 委員

行政、社協、町会自治会、地域包括支援センター、どこの地区も関係機関と連携をとりながら地域づくりを行っていることを感じました。

●川崎市多摩区社会福祉協議会 吉田 紀代子 委員

多摩区内5地区の特性に応じた地域づくりが行われていると思います。

町内会・自治会が連携し、安心・安全なより良い多摩区を目指して欲しいと思います。

その他の御意見・御質問

●多摩区商店街連合会 安陪 修司 委員

多摩区内においても新しい問題が生じている。その中でともに生きる社会に公、民一体となつて明るい地域社会の実現に向け、多くの団体、個人の活躍が行われている事、本当に大切な事と思います。

●多摩区子ども会連合会 小山 富士子 委員

資料だけでは内容もよく分からず、意見も出せませんでした。